



# 平成30年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(非連結)

平成29年10月27日

上場会社名 株式会社 木曽路

上場取引所 東名

コード番号 8160 URL <http://www.kisoji.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 吉江 源之

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 服部 昭仁

TEL 052-872-1811

四半期報告書提出予定日 平成29年11月7日

配当支払開始予定日

平成29年11月27日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成30年3月期第2四半期の業績(平成29年4月1日～平成29年9月30日)

### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第2四半期	19,726	0.2	307		273		256	
29年3月期第2四半期	19,766	0.1	1,270		1,234		783	

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第2四半期	9.93	
29年3月期第2四半期	30.31	

### (2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第2四半期	36,955		28,440			77.0
29年3月期	37,732		28,868			76.5

(参考)自己資本 30年3月期第2四半期 28,440百万円 29年3月期 28,868百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期		7.00		9.00	16.00
30年3月期		9.00			
30年3月期(予想)				9.00	18.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 平成30年 3月期の業績予想(平成29年 4月 1日～平成30年 3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	44,600	0.6	2,100	96.1	2,160	82.2	1,180	104.8	45.67

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期2Q	25,913,889 株	29年3月期	25,913,889 株
期末自己株式数	30年3月期2Q	78,996 株	29年3月期	78,700 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期2Q	25,835,057 株	29年3月期2Q	25,835,899 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、〔添付資料〕4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

また、当社は、以下のとおり投資家向け説明会を開催する予定です。この説明会で配布した資料等については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

開催日:平成29年11月15日(水)……機関投資家、アナリスト向け決算説明会

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

(第2四半期累計期間)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円
平成30年3月期	19,726	△307	△273	△256	△9.93
平成29年3月期	19,766	△1,270	△1,234	△783	△30.31
増減率(%)	△0.2	-	-	-	-

当第2四半期累計期間(平成29年4月1日から平成29年9月30日まで)におけるわが国経済は、企業収益の増加や雇用環境の改善などから緩やかな回復基調で推移しました。その一方で可処分所得の伸び悩みや物価上昇懸念などから節約志向の持続、また、国内外の政治経済動向の不透明感など、依然先行きは不透明な状況で推移しました。

外食業界におきましては、円安や物流コストの上昇などによる原材料価格の上昇や人手不足による人件費の増加、また、お客様の嗜好の多様化や食の安全・安心への対応など依然厳しい経営環境で推移しております。

このような経営環境の中で当社は、マーケティングによりお客様の嗜好や期待を把握し、強みである商品力及び接客力を強化するとともに、原材料の仕入から消耗品などの購入の見直しを継続しました。また、営業時間の短縮、勤務シフトの見直しや機械化(IT化)を進め、生産性の向上とともに働きやすい職場づくりに努めました。

店舗展開、改築・改装につきましては、1店舗の新規出店、1店舗の退店を実施し、その結果、当第2四半期会計期間末の店舗数は163店舗(前年同期比1店舗減少)となりました。

営業面では、歓送迎会の予約獲得、当社の強みであるハレの日需要の取り込みを強化するとともに、多様化するお客様ニーズにお応えするため料理の品質向上やメニューの見直しに取り組みました。また、付加価値の高い旬の食材を使用した料理の販売とともに、接客サービスの充実に努めました。しかしながら、木曽路部門において、昨年実施した「しゃぶしゃぶ祭り」を中止したこともあり若干の減収となりました。

また、ご来店されたお客様に安心してお食事を楽しんで頂くこと、地域社会への貢献を目的として、平成29年7月までに「AED(自動体外式除細動器)」をしゃぶしゃぶ・日本料理の「木曽路」全店118店舗、本社及び名古屋工場の120箇所を設置いたしました。

費用面では、食材やメニューの見直し、ロス管理により原価率を改善し、出退勤時間・人員配置など勤務シフトの見直しにより人件費率が低下しました。また、広告・販促方法の見直しや消耗品などの購入見直しを継続し、効率化、最適化に努めました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は197億26百万円(前年同期比0.2%減少)、営業損益は3億7百万円の損失(前年同期実績12億70百万円の損失)、経常損益は2億73百万円の損失(同12億34百万円の損失)、四半期純損益は2億56百万円の損失(同7億83百万円の損失)を計上しました。

(部門別の概況)

部門別売上高

	前第2四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	前年同期比 増減率
	百万円	百万円	%
木曽路	16,502	16,381	△0.7
素材屋	1,085	1,061	△2.2
じゃんじゃん亭	961	1,166	21.3
とりかく	537	502	△6.5
鈴のれん	455	441	△3.0
その他	224	173	△22.8
計	19,766	19,726	△0.2

### 木曽路部門

しゃぶしゃぶ・日本料理の「木曽路」部門は、店舗の異動はなく、当第2四半期会計期間末店舗数は118店舗(前年同期末比1店舗減少)であります。

営業面では、顧客の裾野拡大を試みる新提案として「黒豚しゃぶしゃぶ」の販売や好評を得ている「北の幸まつり」、秋の「収穫祭」を実施するとともに、歓送迎会などの法人顧客へのアプローチを実施しました。また、お誕生日やお祝い初めなどのお子様のお祝い、新入学、就職、結婚や長寿といった慶事・祝事へのアプローチとともに最適のおもてなしを提供して参りました。しかしながら、前事業年度末の1店舗の退店及び昨年実施した「しゃぶしゃぶ祭り」を中止した結果、売上高は163億81百万円(前年同期比0.7%減少)となりました。

### 素材屋部門

居酒屋の「素材屋」部門は、店舗の異動はなく、当第2四半期会計期間末店舗数は14店舗であります。

営業面では、味噌串かつ・手羽先のから揚げなどの名古屋めしやこだわりの炭火串焼き、また自家製の惣菜料理や旬の食材を活かした季節メニューの販売、様々な宴会のニーズにお応えするための個室やお値打ちなコース料理をご用意し営業活動を行いました。売上高は10億61百万円(同2.2%減少)となりました。

### じゃんじゃん亭部門

焼肉の「じゃんじゃん亭」部門は、1店舗の新規出店により、当第2四半期会計期間末店舗数は14店舗(前年同期末比2店舗増加)となりました。

営業面では、「手切り、熟成肉、黒毛和牛」にこだわり、食べ放題メニューの拡販とスピード提供、先手のサービスに取り組みました。また、法人や学生のイベントなどに合わせたメルマガの配信や学生応援企画など予約獲得活動に努めました。その結果、前事業年度年中に3店舗の出店もあり、売上高は11億66百万円(同21.3%増加)となりました。

### とりかく部門

鶏料理の「とりかく」部門は、1店舗の退店により、当第2四半期会計期間末店舗数は9店舗(前年同期末比2店舗減少)となりました。

営業面では、「手作り」、「鶏」にこだわった料理と旬の逸品料理の販売を行い、また鶏料理の醍醐味と季節に合わせた食材の宴会メニュー、お客様ニーズの高い飲み放題プランを複数用意し、来店客数の増加に努めましたが、売上高は5億2百万円(同6.5%減少)となりました。

### 鈴のれん部門

和食レストランの「鈴のれん」部門は、店舗の異動はなく、当第2四半期会計期間末店舗数は6店舗であります。

営業面では、御膳や季節毎のメニューを充実し、各種宴会メニューやしゃぶしゃぶまたはすきやきの食べ放題メニューをご用意、また慶弔などの行事に対応したメニューと人数に合わせた多様なお席を準備し、来店客数の増加に努めましたが、売上高は4億41百万円(同3.0%減少)となりました。

### その他部門

その他部門は、ワイン食堂の「ウノ」、九州味巡りの「ここの」、外販(しぐれ煮、胡麻だれ類)、不動産賃貸等であります。

前年同期中にワイン食堂の「ウノ」を5店舗退店したこともあり、その売上高は1億73百万円(同22.8%減少)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### ①資産、負債及び純資産の状況

	前事業年度末 (平成29年3月31日現在)	当第2四半期 (平成29年9月30日現在)	増減
総資産(百万円)	37,732	36,955	△777
純資産(百万円)	28,868	28,440	△427
自己資本比率(%)	76.5	77.0	-
1株当たり純資産(円)	1,117.42	1,100.87	△16.55

当第2四半期会計期間末の総資産は369億55百万円で前事業年度末比7億77百万円の減少となりました。主な要因は、設備投資、賞与、配当金、法人税等の支払による預金の取り崩し、季節的要因による売掛金の減少及びたな卸資産の減少によるものであります。一方、負債は、85億14百万円で前事業年度末比3億49百万円の減少となりました。主な要因は、季節的要因による買掛金及び未払法人税等の減少によるものであります。また、当第2四半期会計期間末の純資産は284億40百万円で前事業年度末比4億27百万円の減少となりました。主な要因は、四半期純損失2億56百万円、剰余金の配当2億32百万円であります。

以上の結果、当第2四半期会計期間末の自己資本比率は77.0%(前事業年度末は76.5%)、1株当たり純資産は1,100.87円(同1,117.42円)となりました。

### ②キャッシュ・フローの状況

	前第2四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	増減
営業活動による キャッシュ・フロー(百万円)	△1,696	347	2,043
投資活動による キャッシュ・フロー(百万円)	△436	△377	59
財務活動による キャッシュ・フロー(百万円)	△230	△287	△56
現金及び現金同等物の 四半期末残高(百万円)	11,038	13,410	2,371

当第2四半期累計期間のキャッシュ・フローは、営業活動によるキャッシュ・フローが3億47百万円の流入超過(前年同期は16億96百万円の流出超過)となりました。主な要因は、減価償却費の計上及びたな卸資産の減少による資金増加に対して、税引前四半期純損失の計上及び法人税等の支払によるものであります。投資活動によるキャッシュ・フローは、主な要因として新規出店・改装等による投資、投資有価証券の取得及び定期預金の解約等により3億77百万円の流出超過(前年同期は4億36百万円の流出超過)、財務活動によるキャッシュ・フローは、リース債務の返済、配当金の支払等で2億87百万円の流出超過(前年同期は2億30百万円の流出超過)となりました。

以上の結果、当第2四半期会計期間末の現金及び現金同等物の残高は前事業年度末比3億17百万円減少し、134億10百万円となりました。

## (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、平成29年7月28日公表の「業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」から変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位:百万円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成29年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	13,727	13,410
売掛金	1,063	945
商品及び製品	51	62
原材料及び貯蔵品	940	518
その他	846	992
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	16,629	15,928
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	6,025	5,806
土地	5,723	5,723
その他(純額)	1,412	1,409
有形固定資産合計	13,161	12,940
無形固定資産	120	112
投資その他の資産		
差入保証金	4,559	4,474
その他	3,292	3,531
貸倒引当金	△30	△31
投資その他の資産合計	7,821	7,974
固定資産合計	21,103	21,027
資産合計	37,732	36,955
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,258	1,103
短期借入金	920	920
未払法人税等	548	210
賞与引当金	492	588
その他の引当金	333	330
その他	2,392	2,408
流動負債合計	5,945	5,562
固定負債		
退職給付引当金	985	988
資産除去債務	1,311	1,309
その他	622	654
固定負債合計	2,919	2,952
負債合計	8,864	8,514
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	10,056	10,056
資本剰余金	9,875	9,875
利益剰余金	8,775	8,286
自己株式	△122	△123
株主資本合計	28,585	28,095
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	283	345
評価・換算差額等合計	283	345
純資産合計	28,868	28,440
負債純資産合計	37,732	36,955

(2) 四半期損益計算書  
(第2四半期累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
売上高	19,766	19,726
売上原価	6,681	6,322
売上総利益	13,085	13,404
販売費及び一般管理費	14,356	13,711
営業損失(△)	△1,270	△307
営業外収益		
受取利息	8	9
受取配当金	14	10
協賛金収入	8	2
固定資産受贈益	—	12
その他	12	7
営業外収益合計	44	42
営業外費用		
支払利息	3	3
保険解約損	2	—
賃貸借契約解約損	—	3
その他	2	2
営業外費用合計	8	9
経常損失(△)	△1,234	△273
特別利益		
投資有価証券売却益	202	—
特別利益合計	202	—
特別損失		
固定資産除却損	12	4
固定資産売却損	1	—
減損損失	16	5
特別損失合計	30	9
税引前四半期純損失(△)	△1,062	△283
法人税、住民税及び事業税	60	60
法人税等調整額	△339	△87
法人税等合計	△279	△27
四半期純損失(△)	△783	△256



(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純損失(△)	△1,062	△283
減価償却費	552	526
減損損失	16	5
売上債権の増減額(△は増加)	176	118
たな卸資産の増減額(△は増加)	△613	411
仕入債務の増減額(△は減少)	4	△154
未払消費税等の増減額(△は減少)	△197	△59
その他	△328	90
小計	△1,451	654
利息及び配当金の受取額	21	19
利息の支払額	△3	△3
法人税等の支払額	△227	△314
法人税等の還付額	2	0
その他	△36	△8
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,696	347
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△537	△247
投資有価証券の取得による支出	△300	△802
投資有価証券の売却及び償還による収入	413	100
定期預金の払戻による収入	-	520
差入保証金の回収による収入	114	89
その他	△127	△37
投資活動によるキャッシュ・フロー	△436	△377
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
配当金の支払額	△180	△232
その他	△49	△54
財務活動によるキャッシュ・フロー	△230	△287
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△2,364	△317
現金及び現金同等物の期首残高	13,403	13,727
現金及び現金同等物の四半期末残高	11,038	13,410

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。